

ひがし 57/12/20

広報 しらかわ

■発行 東白川村役場 ■編集 東白川村役場総務課 ■住所〒 509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地
 ■☎(057478) 3111・内線34 ■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷有限会社

	人口の動き
世帯数	937世帯
人口	3,730人
転入	3人
転出	8人
出生	3人
死亡	2人

先月と比較して4人減
昨年の同月と比較して8人減



「自家用のしめ縄は自分たちの手で」と、老人クラブ清楽会では12月14日に西洞クラブでしめ縄作りをしました。この行事は今年で6年目。当日は約20人のクラブ員がわらと障子紙などを持って集まり、慣れた手つきでしめ縄作りに精を出していました。

おもな内容

- スタートします老人保健制度 P 2~3
- 成人病検診の結果 P 4~5
- 住宅を新築・改良するときの注意 P 6
- スポーツ P 7
- 東白川小の収穫祭 P 8
- カメラの目 P 10
- けいじ板はP 6~7の下欄

老後の健康…老人クラブ活動の活性化もかぎを握っています
(ゲートボール大会から)

58年2月

老後の健康を確保するには…

スタートします老人保健制度



十人中七人が病気 村のお年寄り

医学・医療の進歩と老人医療無料化などにより、わが国の平均寿命は急速に伸びて世界のトップクラスになりました。でもこれは必ずしも健康な老人が増えていることを意味していません。

現に七十歳以上のお年寄りは現在総人口の一三%弱で、そのうち何の異常もないという人は三〇%弱です。つまり、お年寄りの十人に七人は何えていることを意味していません。

そして、この現状はそのまま

うち、病気を自覚している人の割合（有病率）は全国平均で四一・四%で、全年齢平均の一%のほぼ四倍近くになっています。本村の場合は七十歳以上の保険制度では、七十歳以上の老人の医療に要する費用を、国・都道府県・市町村と保険者が共同で持ち寄ることにより、老人に対する医療を安定的に行うことをとしています。

外来・入院ともに一部負担金が必要

老人保健制度では、市町村が行う事業は△医療▽医療以外の保健事業（①健康相談②健康診査③健康教育④健康手帳の交付⑤機能訓練⑥訪問指導）となっています。

医療の対象となる人は、国民健康保険や健康保険などの医療保険加入者のうち、七十歳以上の人と六十五歳以上七十歳未満のねたきりなどの状態にある人（市町村長の認定が必要）です。

そつくり医療費にはねかえっています。老人医療の無料化と高度医療の普及などがさらに拍車をかけ、今後老人医療費は伸び続け近い将来財政面でパンク状態に追い込まれることは必至です。



成人病検診結果まとまる

予
防
管
理
密
合

合わせて1,228人が受診

受診率は例年並みの六三・四%

村民の健康を守るための手助けとして行われてきた成人病検診。今年も予防検診が八月四日から六日間、地区の集会場など十三会場で、また精密検診と管理検診は東白川病院で、九月九日から十月二十二日の間、週二回の割合で実施されました。三つの検診を合わせた受診者は一千二百一十八人で、受診率は六三・四%。それぞれ自分の健康度を確認しました。

依然低い男性の受診率

予防検診

八月に行われた予防検診対象者は、昨年の結果異常なしと判定された人と、満三十歳になつた人や転入した人など新規対象者的一千七百四十八人で、受診者は一千七十七人。受診率は六一・六%，うち九四・五%の人

が健康の判定を受けました。受診率は昨年度の七〇・三%と比べて八・七%低くなっていますが、昨年は四年ぶりに対象者全員に血液検査を実施したことが受診率に影響したと考えられ、今年の六割強の受診率は決

して低い訳ではなく、例年並みといえるようです。

グラフIは、昭和五十一年から今年までの予防検診受診者数と男女別受診率の推移を表わしたものですが、過去七年間で際立つて受診率の高い昨年に比べれば今年はかなり低い感じがしますが、他の年と比べてみればなるほどどうなずいていただけます。

またグラフの中で問題となるのは、女性の受診率に比べ男性のそれは依然として低いという

ことです。一五%から二〇%余りもの差がでています。

特に年代別でみた場合、三十代、四十年代の働き盛りの人たちの受診率が相変わらず伸び悩んでいます。健康であってこそ一家の柱として働くことができるわけです。年に一度は検診を受け、健康を確認し明日への活力を養つて行きたいものです。

もう一つ問題点があります。それは検診を受ける人は毎年ほとんど同じで、未受診の人は固定化してしまったといふことです。未受診者の多くは「自分は健康だから……」といったものです。しかし自分の健康はどうか。しかし自分の健康はだれのものでもありません。自分で守るしか手はないのです。

病気になつてからでは遅すぎます。悪くならないうちに自分の健康に対する認識を深め、それを守つて行く姿勢がなによりもたいせつです。

